



【編集・発行】侍浜町振興協議会
侍浜市民センター
☎0194-58-2110

「元気で助けることができ何よりです」

人命救助で感謝状

久慈重明さん



侍浜町町の久慈重明さんは、十月三日(土)の早朝、釣り中に海に転落した山形町の男性を救助し、十月八日に久慈署署長(熊谷秀一署長)から感謝状が贈られた。

十月三日は海上の状態が良くない中、久慈さんが午前七時過ぎに横沼漁港で漁の準備を始めたところ、海に転落した男性と一緒にいた友人が助けを求めに来た。その友人を船に乗せ、すぐに出発すると、漁港を出て間もなくのところで、転落した男性が海面から沈んで浮かんざりしている状況。海面が荒れる中、転落している人のそばに一、五メートルのところまで船を寄せ、差し伸べた二メートルほどの棒に男性がつかまり、船に引き寄せ二人で引っ張りあげた。

すでに友人が緊急通報を打っていたことから、船が岸壁につくころには、救急車や消防車、警察の車両が到着していた。救急隊員が船から男性を運び出した。後日、転落した男性が久慈さんにお礼に来た際、感謝状を渡された。

【裏面記事】

- 市内最大規模のメガソーラー竣工式〜久慈侍浜太陽光発電所
- 「JA新いわて侍浜地区「いいね!」号」運行予定日
- 図書館寄贈〜健全育成部
- 吉成食品からお知らせ
- お知らせ

謝の言葉とともに、「あと一分遅いと危なかったと話していた。男性が転落したあたりは横沼展望台の下の方で、急な岩場のため海からは上ることが非常に困難な場所です。ライフジャケットを着用していませんでした。久慈さんは、「あれ以上のタイミングはなかった。元気で助けることができた何よりです。」と安堵の表情を浮かべていた。



警察からの感謝状を手にする久慈重明さん

手縫い雑巾四百枚寄贈

侍浜町老人クラブ連合会

侍浜町老人クラブ連合会(桑田和雄会長)は、九月十六日(水)侍浜保育園、侍浜小学校、侍浜中学校、拓開支援学校へ手縫い雑巾を百枚ずつ寄贈しました。贈呈にあたっては、例年、学習発表会や運動会のプログラムの中に寄贈せしめて行っており、今年も「手縫い雑巾をたくさす」をテーマに、同会が今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、同会の桑田会長、大向達夫副会長、外森良子副会長の三名



で訪問し、各施設の玄関付近で寄贈を行いました。手縫い雑巾をたくさすといったさまざまな、大切に使用していただきます。」と感謝しておりました。

手縫い雑巾の寄贈は、毎年、同会が取り組んでいる地域貢献活動で、今年度六年度目となり、これまで作成した雑巾は、千枚を超えるそうです。これからは、新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、同会の会員がそれぞれの手縫い雑巾を、この日に向け、手縫いを進めてきたとのこと。

「郷土・侍浜地区」企画展が開催されました



今年七月に駅前前の「YOMUNOSU(よむのす)」に移転した久慈市立図書館(よむのす)二階では、九月三十日〜十月三十一日まで、久慈市の郷土の魅力伝える企画展「郷土・侍浜地区」を開催しました。侍浜地区の郷土史や文化についてふれられるような本を集め、また、侍浜地区の風景写真も併せて展示されました。この企画は、毎年、市内の地域一か所を選び、開催するもので、よむのすオープン初年度の今年は侍浜地区が選ばれました。ジャンルとして、歴史、産業、伝統、電話、伝説、文楽、広報海鳴等が展示されました。

今年七月に駅前前の「YOMUNOSU(よむのす)」に移転した久慈市立図書館(よむのす)二階では、九月三十日〜十月三十一日まで、久慈市の郷土の魅力伝える企画展「郷土・侍浜地区」を開催しました。侍浜地区の郷土史や文化についてふれられるような本を集め、また、侍浜地区の風景写真も併せて展示されました。この企画は、毎年、市内の地域一か所を選び、開催するもので、よむのすオープン初年度の今年は侍浜地区が選ばれました。ジャンルとして、歴史、産業、伝統、電話、伝説、文楽、広報海鳴等が展示されました。

侍浜町民文化祭

並びに 侍マルシェ

中止

例年、十一月に開催している両イベントは、関係者による協議の結果、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、やむを得ず中止が決定されました。



沢の流れを利用した水車が復元

昭和から令和につなぐ

ゴットン水車ついに完成

令和二年十月、侍浜町本町侍浜農村公園付近に水車が復元。

作ったのは侍浜町老人クラブ連合会長の本町在住桑田和雄さん(七十九歳)個人的に約半年がけ仲間の手を借りながらこつこつと小型の水車小屋を建て、地域の子ども、都会から来る教育旅行生や外国人たちに見て感じてほしい、との思いからだった。水車は、桑田さん所有の雑木林の一角、沢をまたいで小屋(二坪)を



今回復元された水車小屋



沢水を引き込み水車を回す

設置。水車幅は直径約十センチメートル、自然に流れ落ちる沢水を利用する。小型ながら心棒で繋がる三本木、木目三本も備えた沢水の流れを利用する工夫と作業者が得意の谷崎さん(侍浜町町)に依頼し復元。建設地周辺に不法投棄と思われるガラス片、陶器破片、所用品目。タンなど軽トラ一台分の処理には仲間の手を借りた。「侍浜では十数台の水車の恩恵を受けた時代があった。興味をもっとほしい。私の世代で歴史や技術を絶やしたくない」と力を込め、問い合わせは桑田和雄さん(〇一九四一五八一三四)へ。

